

ポルトガル月報

2022年10月

(本月報は月末現在の報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】★レベロ・デ・ソウザ大統領、共和制樹立記念日で演説

【外交】★レベロ・デ・ソウザ大統領、キプロスを公式訪問／★コスタ首相、ドイツ及びスペイン首相と会談

【経済】★ポルトガル・スペイン・フランスを接続するガスパイプラインの建設に合意

★2023年度予算法案が可決

(上記主要ニュースには以下本文にて★が付されている)

内政

★レベロ・デ・ソウザ大統領、共和制樹立記念日で演説

10月5日、ポルトガルは112回目の共和国制樹立記念日を迎えた。レベロ・デ・ソウザ大統領はリスボン市庁舎前広場で記念演説を行った。

レベロ・デ・ソウザ大統領は、「我々はパンデミックでの生活を終えたが、現在は経済・社会的コストを強いる戦争の時代で生活している。しかし、100年前とは異なり、このような時こそ自由、民主主義、そして共和制といった手段を思い出す時である。1922年当時、このような仕組みはなく、我々はこれらを深く知らなかった。しかし、今我々は民主主義の中に我々の道があることを知っている。たとえ、我々がパンデミック後の戦争の世界にいようと、我々が今よりも良い日々を送り、将来がより良くなるかどうかは、我々次第なのである。自由、民主主義、共和制は、我々に歴史に終わりがいいことを教えてくれる。」と、記念日を祝福した。

●インテルカンパス社の世論調査結果—10月

10月28日、インテルカンパス社は政党支持に関する世論調査の結果を発表した。物価上昇への対応が続く中、与党・社会党(PS)の支持率は28.3%(前月比2.3ポイント減)に減少し、最大野党・社会民主党(PSD)の支持率は24.8%(同0.1ポイント増)と増加した。PSとPSDの支持率の差は3.5ポイン

ト(前月比2.4ポイント減)に縮小した。その他主要政党ではリベラル主導党(IL)、左翼連合(BE)及び自由党(Livre)の支持率が増加し、統一民主連合(CDU)及び人と動物と自然の党(PAN)の民衆党(CDS)支持率が減少した。同社による最近の政党別支持率は以下のとおり。

【ポルトガル国内政党支持率推移】

政党	5月	6月	7月	8月	9月	10月
PS	34.5	34.3	35.1	33.1	30.6	28.3
PSD	18.5	21.7	19.8	22.8	24.7	24.8
CH	7.7	8.2	8.3	8.4	9.2	9.2
IL	6.8	6.9	8.5	7.1	5.2	7.3
BE	5.2	5.2	5.4	5.0	5.2	6.1
CDU	3.6	3.2	2.8	2.2	2.9	2.6
Livre	1.8	1.2	1.7	1.9	1.8	2.2
PAN	3.6	2.7	2.2	1.3	2.5	1.8
CDS	2.9	2.9	2.0	0.7	1.1	0.6

■調査期間：10月17日～22日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者607人、調査方式：固定及び携帯電話番号を無作為に抽出、回答率：62.6%統計上の誤差：4.0%

■PS＝社会党、PSD＝社会民主党、CH＝シェーガ党、IL＝リベラル主導党、BE＝左翼連合、CDU＝統一民主連合(ポルトガル共産党(PCP)・緑の党(P

EV)、Livres=自由党、PAN=人と動物と自然の党、CDS=民衆党

外交

●ゴメス・クラヴィーニョ外相、アルジェリア外相と会談

10月5日、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、アルジェリアを訪問し、同国のラムタン・ラマムラ外務大臣と会談した。会談では経済・協力分野に関する二国間関係について意見が交わされた。ゴメス・クラヴィーニョ大臣はラマムラ大臣との会談に関し、「アルジェリアは単なる近隣国ではなく、地中海、EU・アフリカ及びアラブ世界間関係などに関する多くの懸念を共有している。地政学及び地理経済学的な転換点にある中、我々が共に協力できることについて話すことは重要であった。アルジェリアは化石燃料の輸出国でもあるが、太陽光及び風力発電に関して大きな潜在力を有している。我々はこれらの分野に強い優秀な企業を有しており、アルジェリアも、同分野に対するポルトガルの投資に関心を示している。」と会談の意義を述べた。

★レベロ・デ・ソウザ大統領、キプロスを公式訪問

10月8日から9日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領はキプロスを公式訪問した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、8日、首都ニコシアでアナスタシアディス大統領に歓迎を受けた後、同大統領との二国間会談に臨んだ。また、会談後は機密情報の共有及び相互保護に関する協定に署名した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、同会談の他、デメトリオウ・キプロス議会議長との会談、ニコシア歴史地区の視察、在キプロス・ポルトガル人コミュニティとの歓談、アナスタシアディス大統領主催の公式晩餐といった予定を過ごした。

レベロ・デ・ソウザ大統領は「ここには新たな道を歩む重要な同盟がある。この道はポルトガルにとってプラットフォームとしてこの瞬間に重要なだけでなく、世界で多くの国外移住者がいるキプロスにとっても重要であり、いくつかの事例においては我々と重なる部分がある。」と、協力の可能性について述べた。今般訪問は、

アナスタシアディス大統領からの招待を受けたもので、多分野での二国間関係強化の他、他国間及びEUの計画における重要なテーマに関する意見交換が目的となった。レベロ・デ・ソウザ大統領は、ポルトガルの大統領としては初めてのキプロス訪問となった。

★コスタ首相、ドイツ及びスペイン首相と会談

10月14日、コスタ首相は、ベルリンで、ドイツのショルツ首相及びスペインのサンチェス首相と会談を行い、EU及び国際社会の主要課題並びにウクライナ情勢及びEU内ガス供給網の相互接続について意見を交わした。コスタ首相は会談後、「イベリア半島は再生可能エネルギー、そしてグリーン水素を供給する能力がある。他方で、地理的にも米国やアフリカ沿岸国、トリニダード・トバゴ等から輸送された天然ガスの中継地点でもある。」と欧州のエネルギー安全保障における、ポルトガルの重要性を強調した。

●ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣、イラン外相と電話会談

10月14日、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、イランのアミール・アブドラヒアン外務大臣と電話会談を行った。同会談では、イラン国内における政治及び社会情勢が中心テーマとなり、アブドラヒアン大臣は国内事情に関する当局の評価の詳細を説明した。ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は女性の権利を抑圧する制度の存在が最近のイラン国内の出来事の根底にある旨繰り返し、イラン当局に対し、女性の権利の促進に関する前向きな姿勢を示すよう訴えた。また、ウクライナ戦争に関しては、ウクライナ領内におけるロシアによるイラン製ドローンの利用に関する報告に対する懸念を強調した。この点に関し、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、同機材がロシアに供給されないことをイラン当局が保証する必要性について強調した。イランとの核合意に関しては、クラヴィーニョ外相は合意到達の緊急性及び重要性を繰り返し、信頼できる措置の採用及びIAEAを始めとする全ての関係者との対話の継続を促した。更に、ポルトガル及びイランの文化及び歴史的つながりに基

づいた二国間関係についても確認された。

●ゴメス・クラヴィーニョ外相、タンザニア外相と会談

10月21日、ゴメス・クラヴィーニョ外務大臣は、リスボンを訪問したタンザニアのステルゴメナ・タックス外務・東アフリカ協力大臣と会談を行った。会談では、両国における二国間協力及び多国間協力の可能性や、地域レベル及び世界レベルの議題について意見が交わされた。両大臣は会談後、両国には関係を更に強化するための機会があることを認識しており、ブルー・エコノミー、平和と安全保障、他国間枠組みにおける国防といった共通の関心事項における両国のつながりを強化するための取り組みを強化している旨述べ、二国間関係の発展に対する期待を確認した。

●レベロ・デ・ソウザ大統領、アイルランドを公式訪問

10月19日から20日にかけて、レベロ・デ・ソウザ大統領は、アイルランドとの外交樹立80周年を記念し、アイルランドを訪問した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、首都ダブリンでヒギンズ大統領の歓迎を受けた後、同大統領との会談に臨んだ。アイルランド訪問中、レベロ・デ・ソウザ大統領は報道陣に対し「今回の訪問はウクライナでの戦争、英国のEU離脱以降の交渉及び二国間関係の適切な文脈の中での訪問であった。アイルランドとの二国間関係は飛躍を遂げている。ポルトガルへのアイルランド観光客が100%以上の伸びを見せ、また、ポルトガルの若い世代がアイルランドにもやってくる。」と良好な二国間関係を強調した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、ヒギンズ大統領との会談の他、マーティン首相との会談、デイリー・アイルランド上院議会議長との会談、アイルランドの自由のために命を捧げた人々を記憶するガーデン・オブ・リメンブランスでの献花、市内各地の視察を行った。

●コスタ首相、ボルヌ仏首相と会談

10月29日、コスタ首相は、リスボンを訪問したエリザベット・ボルヌ首相と会談を行った。会談では、2

月からポルトガルとフランスが共同で実施した文化プログラムや両国の経済・社会関係について意見が交わされた。会談後の記者会見でボルヌ首相は「両国の関係は経済、文化、教育あるいは戦略的な協力に基づき、信頼及び明日への挑戦という文脈から育まれた友情である。」と両国の良好な関係を評価した。コスタ首相は「来年、マクロン大統領のポルトガル訪問が予定されているが、それまでの間、両政府は、二国間及びEUの枠組みにおける協力条件の強化のための作業を行う。我々は世界の中でのEUの在り方について共通のビジョンを持っており、対外関係、特にアフリカ大陸に隣人を有しているという点に関しても共通している。」と両国の国際社会での協力の重要性を強調した。

経済

★ポルトガル・スペイン・フランスを接続するガスパイプラインの建設に合意

10月20日、コスタ首相は、ベルギーのブリュッセルで、フランスのマクロン大統領及びスペインのサンチェス首相と会合を行った。同会合で、三か国の首脳はスペインのバルセロナとフランスのマルセイユをつなぐガスパイプライン「グリーンエネルギー回廊」の建設に合意した。同ガスパイプラインは、グリーン水素輸送のための利用を目的とするものの、当面は天然ガスの輸送に使用される見込み。コスタ首相は本合意に関し「同計画は、セロリコ・ダ・ベイラ（ポルトガル）とサモラ（スペイン）をつなぎ、相互接続を補完し、スペインと欧州の他の地域を、海洋ルートを通じ、バルセロナとマルセイユで接続する。今般合意は欧州全体にとって、エネルギー危機に立ち向かうために必要な共通の連帯の精神のために、3か国による好ましい貢献である。ポルトガル・スペイン間の162kmの接続は、既にグリーン水素のために計画されていた同パイプラインのスペイン国境への到着で、ポルトガルにとっての大きな資産であり、『(国内) 1,000万人』だけでなく、『(イベリア半島全体の) 6,000万人』の市場と接続能力を高めることができる。」と安全保障及び経済的観点からの意義を説明した。

★2023年度予算案が可決

10月27日、ポルトガル共和国議会は2023年度予算案を賛成多数（賛成：120、反対108、棄権：2）で可決した。過半数を占める与党社会党（PS）のみが賛成票を投じ、野党各党は反対票を投じた。一議席を有する自由党（Livre）及び人と動物と自然の党（PAN）はそれぞれ棄権した。

2023年度予算案では、マクロ経済シナリオが、GDP成長率：1.3%、賃金上昇率：5.1%、GDP比財政赤字比率：0.9%、GDP比対外債務残削減率：4.2%、物価上昇率：4.0%、と予測・設定された。歳入総額は前年比5.9%増の1,110億2,700万ユーロ（GDP比：44.5%）、歳出総額は3.7%増の1,132億3,300万ユーロ（GDP比：45.4%）となった。基礎的財政収支は22億700万ユーロの赤字（GDP比：0.9%）となったものの、赤字総額は前年と比較しGDP比1%減少した。コスタ首相は可決後、「本日、共和国議会は2023年度国家予算を賛成多数で承認した。危機をもたらした反対多数の投票から一年が経過した。一年後、幸運にもこの投票は我々が生活している危機に立ち向かうための良い手段をもたらす。外的な不安定さに直面する中、我々は国家に対し、安定、信頼及び実行という見通しを示す。」とコメントを残した。

●2022年8月及び第3四半期貿易統計の発表

10月10日、国立統計院（INE）は2022年8月の貿易取引量の変化に関する数値を発表した。8月の貿易取引量は、前年と比較し、輸出が32.6%、輸入が51.9%増加し、石油及び化学製品を除いた数値では、輸出及び輸入でそれぞれ27.3%、33.3%増加した。貿易赤字は、前年同月から17億4,800万ユーロ増加し、35億100万ユーロとなった。28日には、2022年第3四半期の速報値を発表した。第3四半期は、前年同期と比較し、輸出及び輸入がそれぞれ28.0%、35.5%増加し、2022年第2四半期との比較では、輸出及び輸入がそれぞれ、28.0%、35.3%増加した。

●長期国債の入札

10月12日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、3年物長期国債を3億4,900万ユーロ（平均利回り2.087%）及び9年物長期国債を6億5,100万ユーロ（平均利回り3.230%）発行した。落札額は3年物長期国債が、10億5,100万ユーロ（応札倍率3.01倍）、9年物長期国債が11億6,600万ユーロ（応札倍率3.230倍）となった。

●短期国債の入札

10月21日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、1年物短期国債を7億5,000万ユーロ（平均利回り2.104%）発行した。落札額は、13億700万ユーロ（応札倍率1.74倍）となった。

●欧州統計局、第2四半期GDP成長率を発表

10月31日、欧州委員会及び欧州統計局はEU及びユーロ圏、EU加盟各国の2022年第3四半期のGDP成長率速報値を発表した。ポルトガルの前期比成長率は0.4%と、第2四半期に続き低い成長率を記録した。各部門における購買担当者指数が縮小し、消費活動も低下していることから、EU全体でも0.2%と、景気減退傾向となった。他方、前年同期との比較では、ポルトガルは4.9%の成長率を記録しており、EU及びユーロ圏平均値よりも高い成長率を記録した。

【前期比四半期GDP成長率（%）】

	21年4Q	22年1Q	22年2Q	22年3Q
EU	0.7%	0.7%	0.7%	0.2%
ユーロ圏	0.5%	0.6%	0.8%	0.2%
ポルトガル	1.9%	2.4%	0.1%	0.4%

【前年同期比四半期GDP成長率（%）】

	21年4Q	22年1Q	22年2Q	22年3Q
EU	5.0%	5.6%	4.3%	2.4%
ユーロ圏	4.8%	5.5%	4.3%	2.1%
ポルトガル	6.6%	12.0%	7.4%	4.9%

（了）